

編集後記



いもり池からの妙高山

今回の編集・出版は原稿を依頼した皆さんの筆が進んで順調に進めることができた。

さて、10月の第1金曜日は、当財団創立記念日、第2月曜日の体育の日と併せて4連休を楽しめる。

この連休を利用して火打山・妙高山への登山に参加した。妙高山は標高2462m、山頂からは、9月末に初冠雪を迎え、うっすらと雪化粧の北アルプスや雲の上に頂を浮かべる富士山を一望できた。本来なら、10月のこの時期には、山頂から紅葉が始まっているはずが、温暖化の影響かかなり遅い。それでも、高谷池湿原では緑の笹のじゅうたんの上に紅のナナカマド、黄色のミネカエデがちりばめられていて楽しませてくれた。下山後は、黒姫山高原、苗名滝、妙高高原を散策した。池の平温泉近くにあるいもり池は、実際にイモリが多く棲んでいたため、この名前がつけられたという。池の周囲にはおよそ500mの遊歩道があり、秋色に染まった妙高山の景色を眺めながら

の散策を楽しめた。

最近の山行に「カシミール」(数多く出版されている解説本の添付パソコンソフト)と腕時計型GPSを使っている。従来の登山マップを読む楽しみに加えて、計画段階での登山ルートの確認・各地点からの鳥瞰図、山行中のナビゲート機能によって現在地・目的地確認、帰ってからの軌跡確認等、山歩きの楽しみも多彩になっている。面白いのは近辺の地図に地名も登山道も記されていない里山歩きでの利用だ。GPSに記録される軌跡をカシミールを使って2万5千分の1地図上に表示することで、正確に山道を追加作成することができる。友人は、GPSを山菜取りで道なき道を正確に戻ったり、獲物の位置を正確に記録することに使っているそうだ。ただ、このような文明の利器のみに頼っていると、生い茂った森の中での電波の乱れ、電池切れといった予期せぬ出来事に遭遇することもある。従来どおり経験と勘を磨いておくことが肝要だ。(小沼)